



フラッシュ ファイル システムの操作

- [フラッシュ ファイル システムについて, 1 ページ](#)
- [使用可能なファイル システムの表示, 2 ページ](#)
- [デフォルト ファイル システムの設定, 4 ページ](#)
- [ファイル システムのファイルに関する情報の表示, 5 ページ](#)
- [ディレクトリの変更および作業ディレクトリの表示 \(CLI\) , 5 ページ](#)
- [ディレクトリの作成 \(CLI\) , 7 ページ](#)
- [ファイルのコピー, 8 ページ](#)
- [ファイルの作成、表示および抽出 \(CLI\) , 10 ページ](#)
- [その他の参考資料, 12 ページ](#)

フラッシュ ファイル システムについて

フラッシュ ファイル システムは、ファイルを格納できる単一のフラッシュ デバイスです。ソフトウェアバンドルおよびコンフィギュレーションファイルの管理に役立つ複数のコマンドも備えています。スイッチのデフォルトのフラッシュ ファイル システムは `flash:` です。

アクティブなスイッチまたは任意のスタック メンバから参照できる `flash:` は、ローカルフラッシュ デバイスを指します。これは、ファイルシステムが参照されているのと同じスイッチに接続されているデバイスです。スイッチ スタックでは、さまざまなスタック メンバからの各フラッシュ デバイスを、アクティブなスイッチから参照できます。これらのフラッシュ ファイル システムの名前には、対応するスイッチ メンバ番号が含まれています。たとえば、アクティブなスイッチから参照できる `flash-3:` は、スタック メンバ 3 にある `flash:` と同じファイル システムを指します。スイッチ スタックにあるフラッシュ ファイル システムを含むすべてのファイル システムのリストを表示するには、**show file systems** 特権 EXEC コマンドを使用します。

スイッチ スタックでは、一度に 1 人のユーザのみが、ソフトウェア のバンドルおよび設定ファイルを管理できます。

使用可能なファイルシステムの表示

スイッチで使用可能なファイルシステムを表示するには、**show file systems** 特権 EXEC コマンドを使用します（次のスタンドアロンスイッチの例を参照）。

```
Switch# show file systems
File Systems:
  Size(b)      Free(b)      Type      Flags  Prefixes
*  15998976    5135872     flash    rw     flash:
    -          -           opaque   rw     bs:
    -          -           opaque   rw     vb:
    524288     520138     nvram    rw     nvram:
    -          -           network  rw     tftp:
    -          -           opaque   rw     null:
    -          -           opaque   rw     system:
    -          -           opaque   ro     xmodem:
    -          -           opaque   ro     ymodem:
```

次の例では、スイッチスタックを示します。この例では、アクティブなスイッチがスタックメンバ1です。スタックメンバ2のファイルシステムはフラッシュ2として表示されます。スタックメンバ3のファイルシステムはフラッシュ3として表示されます。同様にして、スタックメンバ9まで、スタックメンバ9はフラッシュ9、。また、この例では、次のように、**crashinfo**ディレクトリと、アクティブなスイッチに接続された **USB フラッシュ ドライブ** も示します。

```
Switch# show file systems
File Systems:
  Size(b)      Free(b)      Type      Flags  Prefixes
145898496    5479424     disk      rw     crashinfo:crashinfo-1:
248512512    85983232    disk      rw     crashinfo-2:stby-crashinfo:
146014208    17301504    disk      rw     crashinfo-3:
146014208    0           disk      rw     crashinfo-4:
146014208    1572864     disk      rw     crashinfo-5:
248512512    30932992    disk      rw     crashinfo-6:
146014208    6291456     disk      rw     crashinfo-7:
146276352    15728640    disk      rw     crashinfo-8:
146276352    73400320    disk      rw     crashinfo-9:
*  741621760    481730560    disk      rw     flash:flash-1:
1622147072    1360527360  disk      rw     flash-2:stby-flash:
  729546752    469762048    disk      rw     flash-3:
  729546752    469762048    disk      rw     flash-4:
  729546752    469762048    disk      rw     flash-5:
1622147072    1340604416  disk      rw     flash-6:
  729546752    469762048    disk      rw     flash-7:
1749549056    1487929344  disk      rw     flash-8:
1749549056    1487929344  disk      rw     flash-9:
    0          0           disk      rw     unix:
    -          -           disk      rw     usbflash0:usbflash0-1:
    -          -           disk      rw     usbflash0-2: stby-usbflash0:
    -          -           disk      rw     usbflash0-3:
    -          -           disk      rw     usbflash0-4:
    -          -           disk      rw     usbflash0-5:
    -          -           disk      rw     usbflash0-6:
    -          -           disk      rw     usbflash0-7:
    -          -           disk      rw     usbflash0-8:
    -          -           disk      rw     usbflash0-9:
    0          0           disk      ro     webui:
    -          -           opaque   rw     system:
    -          -           opaque   rw     tmpsys:
    2097152    2055643     nvram    rw     stby-nvram:
    -          -           nvram    rw     stby-rcsf:
    -          -           opaque   rw     null:
    -          -           opaque   ro     tar:
    -          -           network  rw     tftp:
```

```

2097152      2055643      nvram      rw      nvram:
-            -            opaque    wo      syslog:
-            -            network   rw      rcp:
-            -            network   rw      http:
-            -            network   rw      ftp:
-            -            network   rw      scp:
-            -            network   rw      https:
-            -            opaque    ro      cns:
-            -            opaque    rw      revrcsf:
    
```

表 1 : *show file systems* のフィールドの説明

フィールド	値
Size(b)	ファイル システムのメモリ サイズ (バイト単位) です。
Free(b)	ファイルシステムの空きメモリサイズ (バイト単位) です。
タイプ	<p>ファイルシステムのタイプです。</p> <p>disk : ファイル システムは、フラッシュ メモリ デバイス、USB フラッシュ、<i>crashinfo</i> ファイル用です。</p> <p>network : ファイル システムは、FTP サーバや HTTP サーバなどのネットワーク デバイス用です。</p> <p>nvram : ファイルシステムはNVRAM (不揮発性RAM) デバイス用です。</p> <p>opaque : ファイルシステムは、ローカルに生成された <i>pseudo</i> ファイルシステム (<i>system</i> など)、またはダウンロードインターフェイス (<i>brimux</i> など) です。</p> <p>unknown : ファイル システムのタイプは不明です。</p>
Flags	<p>ファイル システムの権限です。</p> <p>ro : 読み取り専用です。</p> <p>rw : 読み取りおよび書き込みです。</p> <p>wo : 書き込み専用です。</p>

フィールド	値
Prefixes	<p>ファイルシステムのエイリアスです。</p> <p>crashinfo : crashinfo ファイルです。</p> <p>flash : フラッシュファイルシステムです。</p> <p>ftp : FTP サーバです。</p> <p>http : HTTP サーバです。</p> <p>https : セキュア HTTP サーバです。</p> <p>nvr : NVRAM です。</p> <p>null : コピーのヌル宛先です。リモートファイルをヌルへコピーして、サイズを判別できます。</p> <p>r : Remote Copy Protocol (RCP) サーバです。</p> <p>s : Session Control Protocol (SCP) サーバです。</p> <p>system : 実行コンフィギュレーションを含むシステムメモリが格納されています。</p> <p>tftp : TFTP ネットワーク サーバです。</p> <p>usbflash0 : USB フラッシュメモリです。</p> <p>xmodem : XMODEM プロトコルを使用して、ネットワークマシンからファイルを取得します。</p> <p>ymodem : YMODEM プロトコルを使用して、ネットワークマシンからファイルを取得します。</p>

デフォルトファイルシステムの設定

デフォルトのファイルシステムとして使用されるファイルシステムまたはディレクトリを指定するには、**cd filesystem:** 特権 EXEC コマンドを使用します。デフォルトファイルシステムを設定すると、関連するコマンドを実行するときに *filesystem:* 引数を省略できます。たとえば、オプションの *filesystem:* 引数を持つすべての特権 EXEC コマンドでは、**cd** コマンドで指定されたファイルシステムが使用されます。

デフォルトでは、デフォルトファイルシステムは *flash:* です。

cd コマンドで指定された現在のデフォルトのファイルシステムを表示するには、**pwd** 特権 EXEC コマンドを使用します。

ファイルシステムのファイルに関する情報の表示

ファイルシステムの内容を操作する前に、そのリストを表示できます。たとえば、新しいコンフィギュレーション ファイルをフラッシュ メモリにコピーする前に、ファイルシステムに同じ名前のコンフィギュレーション ファイルが格納されていないことを確認できます。同様に、フラッシュ コンフィギュレーション ファイルを別の場所にコピーする前に、ファイル名を確認して、その名前を別のコマンドで使用できます。ファイルシステムのファイルに関する情報を表示するには、次の表に記載する特権 EXEC コマンドのいずれかを使用します。

表 2: ファイルに関する情報を表示するためのコマンド

コマンド	説明
dir [/all] [filesystem:filename]	ファイルシステムのファイル リストを表示します。
show file systems	ファイルシステムのファイルごとの詳細を表示します。
show file information file-url	特定のファイルに関する情報を表示します。
show file descriptors	開いているファイルの記述子のリストを表示します。ファイル記述子は開いているファイルの内部表現です。このコマンドを使用して、別のユーザによってファイルが開かれているかどうかを調べることができます。

たとえば、ファイルシステムのすべてのファイルのリストを表示するには、次のように **dir** 特権 EXEC コマンドを使用します。

```

スイッチ# dir flash:
Directory of flash:/
7386  -rwx      2097152 Jan 23 2013 14:06:49 +00:00 nvram_config
7378  drwx         4096 Jan 23 2013 09:35:11 +00:00 mnt
7385  -rw-    221775876 Jan 23 2013 14:15:13 +00:00
cat3k_caa-universalk9.SSA.03.12.02.EZP.150-12.02.EZP.150-12.02.EZP.bin
7389  -rwx         556 Jan 21 2013 20:47:30 +00:00 vlan.dat
712413184 bytes total (445063168 bytes free)
スイッチ#

```

ディレクトリの変更および作業ディレクトリの表示 (CLI)

ディレクトリを変更し、作業ディレクトリを表示するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **dir filesystem:**
3. **cd directory_name**
4. **pwd**
5. **cd**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Switch> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	dir filesystem: 例： Switch# dir flash:	指定されたファイルシステムのディレクトリを表示します。 <i>filesystem:</i> には、システム ボードのフラッシュ デバイスの <i>flash:</i> を使用します。 スタックのスイッチメンバのフラッシュ パーティションにアクセスするには、 <i>flash-n</i> を使用します。 <i>n</i> は、スタックメンバ番号を表します。例えば、 <i>flash-4</i> 。
ステップ 3	cd directory_name 例： Switch# cd new_configs	指定されたディレクトリへ移動します。 コマンド例では、 <i>new_configs</i> という名前のディレクトリに移動する方法を示します。
ステップ 4	pwd 例： Switch# pwd	作業ディレクトリを表示します。
ステップ 5	cd 例： Switch# cd	デフォルトディレクトリに移動します。

ディレクトリの作成 (CLI)

特権 EXEC モードを開始して、ディレクトリを作成するには次の手順を実行します。

手順の概要

1. `dir filesystem:`
2. `mkdir directory_name`
3. `dir filesystem:`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir filesystem: 例 : Switch# dir flash:	指定されたファイル システムのディレクトリを表示します。 <i>filesystem:</i> には、システム ボードのフラッシュ デバイスの flash: を使用します。
ステップ 2	mkdir directory_name 例 : Switch# mkdir new_configs	新しいディレクトリを作成します。スラッシュ (/)間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字で、大文字と小文字の区別があります。ディレクトリ名には制御文字、スペース、スラッシュ、引用符、セミコロン、またはコロンは使用できません。
ステップ 3	dir filesystem: 例 : Switch# dir flash:	入力を確認します。

ディレクトリの削除

ディレクトリを、その内部のすべてのファイルおよびサブディレクトリとともに削除するには、`delete /force /recursive delete /force /recursive filesystem:/file-url` 特権 EXEC コマンドを使用します。

名前指定されたディレクトリを、その内部のすべてのサブディレクトリおよびファイルとともに削除するには、`/recursive` キーワードを使用します。ディレクトリ内のファイルごとに表示される、削除を確認するためのプロンプトを省略するには、`/force` キーワードを使用します。この削除プロセスを実行すると、最初に 1 度だけプロンプトが表示されます。

filesystem でシステム ボードのフラッシュ デバイスを指定する場合は、**flash:** を使用します。*file-url* には、削除するディレクトリの名前を入力します。ディレクトリ内のすべてのファイルおよびディレクトリが削除されます。



注意 ディレクトリが削除された場合、その内容は回復できません。

ファイルのコピー

送信元から宛先にファイルをコピーするには、**copy source-url destination-url** 特権 EXEC コマンドを使用します。送信元および宛先の URL には、**running-config** および **startup-config** キーワードショートカットを使用できます。たとえば、**copy running-config startup-config** コマンドを実行すると、現在の実行コンフィギュレーションファイルがフラッシュメモリの NVRAM セクションに保存され、システム初期化中のコンフィギュレーションとして使用されます。

XMODEM または YMODEM プロトコルを使用するネットワーク マシンのファイルに対する送信元として特殊なファイルシステム (**xmodem:**、**ymodem:**) を指定し、そこからコピーすることもできます。

ネットワーク ファイルシステムの URL には、**ftp:**、**rcp:**、**tftp** などがあり、構文は次のとおりです。

- FTP : **ftp:[[/username [:password]@location]/directory]/filename**
- RCP : **rcp:[[/username@location]/directory]/filename**
- TFTP : **tftp:[[/location]/directory]/filename**

ローカルにある書き込み可能なファイル システムには **flash:** などがあります。

送信元および宛先の組み合わせによっては、無効な場合があります。特に、次に示す組み合わせの場合は、コピーできません。

- 実行コンフィギュレーションから実行コンフィギュレーションへ
- スタートアップ コンフィギュレーションからスタートアップ コンフィギュレーションへ
- デバイスから同じ名前のデバイスへ (たとえば、**copy flash: flash:** コマンドは無効)

スタック内のSwitchから同じスタックの別のSwitchにファイルをコピーする

スタック内のあるスイッチから同じスタック内の別のスイッチにファイルをコピーするには、**flash-X:** 表記を使用します。X はスイッチ番号です。

スタック内のすべてのスイッチを表示するには、9 メンバー スイッチ スタックの例のように、特権 EXEC モードで **show switch** コマンドを使用します。

```
Switch# show switch
Switch/Stack Mac Address : 0006.f6b9.b580 - Local Mac Address Mac persistency wait time:
Indefinite

```

Switch#	Role	Mac Address	Priority	H/W Version	Current State


```
-----
```

*1	Active	0006.f6b9.b580	15	P3B	Ready
2	Standby	0006.f6ba.0c80	14	P3B	Ready
3	Member	0006.f6ba.3300	7	P3B	Ready
4	Member	0006.f6b9.df80	6	P3B	Ready
5	Member	0006.f6ba.3880	13	P1A	Ready
6	Member	1ce6.c7b6.ef00	4	PP	Ready
7	Member	2037.06ce.2580	3	P2A	Ready
8	Member	2037.0653.7e00	2	P5A	Ready
9	Member	2037.0653.9280	1	P5B	Ready

特定のスイッチのコピー可能なすべてのファイルシステムを表示するには、次に示す 5 メンバースタックの例のように、**copy** コマンドを使用します。

```
Switch# copy flash: ?
crashinfo-1: Copy to crashinfo-1: file system
crashinfo-2: Copy to crashinfo-2: file system
crashinfo-3: Copy to crashinfo-3: file system
crashinfo-4: Copy to crashinfo-4: file system
crashinfo-5: Copy to crashinfo-5: file system
crashinfo: Copy to crashinfo: file system
flash-1: Copy to flash-1: file system
flash-2: Copy to flash-2: file system
flash-3: Copy to flash-3: file system
flash-4: Copy to flash-4: file system
flash-5: Copy to flash-5: file system
flash: Copy to flash: file system
ftp: Copy to ftp: file system
http: Copy to http: file system
https: Copy to https: file system
null: Copy to null: file system
nvram: Copy to nvram: file system
rcp: Copy to rcp: file system
revrcsf: Copy to revrcsf: file system
running-config Update (merge with) current system configuration
scp: Copy to scp: file system
startup-config Copy to startup configuration
stby-crashinfo: Copy to stby-crashinfo: file system
stby-flash: Copy to stby-flash: file system
stby-nvram: Copy to stby-nvram: file system
stby-rcsf: Copy to stby-rcsf: file system
stby-usbflash0: Copy to stby-usbflash0: file system
syslog: Copy to syslog: file system
system: Copy to system: file system
tftp: Copy to tftp: file system
tmpsys: Copy to tmpsys: file system
usbflash0-1: Copy to usbflash0-1: file system
usbflash0-2: Copy to usbflash0-2: file system
usbflash0-3: Copy to usbflash0-3: file system
usbflash0-4: Copy to usbflash0-4: file system
usbflash0-5: Copy to usbflash0-5: file system
usbflash0: Copy to usbflash0: file system
```

Switch#

次の例では、スイッチ 2 のフラッシュ パーティションに保存されているコンフィギュレーション ファイルをスイッチ 4 のフラッシュ パーティションにコピーする方法を示しています。スイッチ 2 とスイッチ 4 が同じスタック内にあるとします。

```
Switch# copy flash-2:config.txt flash-4:config.txt
```

ファイルの削除

フラッシュメモリデバイスのファイルが不要になった場合は、そのファイルを永久に削除できます。指定されたフラッシュ デバイスからファイルまたはディレクトリを削除するには、**delete** [/force] [/recursive] [filesystem:] /file-url 特権 EXEC コマンドを使用します。

ディレクトリを、その内部のすべてのサブディレクトリやファイルとともに削除するには、**/recursive** キーワードを使用します。ディレクトリ内のファイルごとに表示される、削除を確認するためのプロンプトを省略するには、**/force** キーワードを使用します。この削除プロセスを実行すると、最初に1度だけプロンプトが表示されます。**/force** キーワードおよび**/recursive** キーワードを使用して、**archive download-sw** コマンドを使用してインストールされ、不要になった古いソフトウェアイメージを削除します。

filesystem: オプションを省略すると、スイッチは **cd** コマンドで指定したデフォルトのデバイスを使用します。*file-url* には、削除するファイルのパス（ディレクトリ）および名前を指定します。ファイルを削除しようとする、削除の確認を求めると、プロンプトが表示されます。



注意

ファイルが削除された場合、その内容は回復できません。

ここでは、デフォルトのフラッシュメモリ デバイスからファイル *myconfig* を削除する例を示します。

```
Switch# delete myconfig
```

ファイルの作成、表示および抽出（CLI）

ファイルを作成してそこにファイルを書き込んだり、ファイル内のファイルをリスト表示したり、ファイルからファイルを抽出したりできます（次の項を参照）。

ファイルの作成、内容の表示、およびファイルの抽出を行うには、特権 EXEC コマンドで次の手順を実行します。

手順の概要

1. **archive tar /create destination-url/flash: /file-url**
2. **archive tar /table source-url**
3. **archive tar /xtract source-url flash:/file-url [dir/file...]**
4. **more [/ascii | /binary | /ebcdic] /file-url**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>archive tar /create <i>destination-url</i>flash: /<i>file-url</i></p> <p>例:</p> <pre>スイッチ# archive tar /create tftp:172.20.10.30/saved. flash:/new-configs</pre>	<p>ファイルを作成し、そこにファイルを追加します。</p> <p><i>destination-url</i> には、ローカルまたはネットワーク ファイル システムの宛先 URL のエイリアス、および作成するファイルの名前を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル フラッシュ ファイル システム構文 flash: FTP 構文 ftp:[[//<i>username[:password]@location</i>]/<i>directory</i>]/-<i>filename</i>. RCP 構文 rcp:[[//<i>username@location</i>]/<i>directory</i>]/-<i>filename</i>. TFTP 構文 tftp:[[//<i>location</i>]/<i>directory</i>]/-<i>filename</i>. <p>flash:/<i>file-url</i> には、ローカルフラッシュファイルシステム上の、新しいファイルが作成される場所を指定します。送信元ディレクトリ内に格納されている任意のファイルまたはディレクトリの一覧を指定して、新しいファイルに追加することもできます。何も指定しないと、このレベルにおけるすべてのファイルおよびディレクトリが、新規に作成されたファイルに書き込まれます。</p>
ステップ 2	<p>archive tar /table <i>source-url</i></p> <p>例:</p> <pre>スイッチ# archive tar /table flash: /new_configs</pre>	<p>ファイルの内容を表示します。</p> <p><i>source-url</i> には、ローカル ファイル システムまたはネットワーク ファイル システムの送信元 URL エイリアスを指定します。-<i>filename</i> は、表示するファイルです。次のオプションがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル フラッシュ ファイル システム構文 flash: FTP 構文 ftp:[[//<i>username[:password]@location</i>]/<i>directory</i>]/-<i>filename</i>. RCP 構文 rcp:[[//<i>username@location</i>]/<i>directory</i>]/-<i>filename</i>. TFTP 構文 tftp:[[//<i>location</i>]/<i>directory</i>]/-<i>filename</i>. <p>ファイルのあとにファイルまたはディレクトリのリストを指定して、ファイルの表示を制限することもできます。指定したファイルだけが表示されま</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		す。何も指定しないと、すべてのファイルおよびディレクトリが表示されます。
ステップ 3	archive tar /xtract source-url flash:/file-url [dir/file...] 例 : スイッチ# archive tar /xtract tftp://172.20.10.30/saved. flash:/new-configs	ファイルをフラッシュファイルシステム上のディレクトリに抽出します。 <i>source-url</i> には、ローカルファイルシステムの送信元 URL のエイリアスを指定します。 <i>-filename.</i> は、ファイルの抽出元のファイルです。次のオプションがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> ローカルフラッシュファイルシステム構文 flash: FTP 構文 ftp:[[/username[:password]@location]/directory]/-filename. RCP 構文 rcp:[[/username@location]/directory]/-filename. TFTP 構文 tftp:[[/location]/directory]/-filename. flash:/file-url [dir/file...] には、ファイルの抽出元にするローカルフラッシュファイルシステム上の場所を指定します。抽出対象のファイル内のファイルまたはディレクトリのリストを指定するには、 <i>dir/file...</i> オプションを使用します。何も指定されないと、すべてのファイルとディレクトリが抽出されます。
ステップ 4	more [/ascii /binary /ebcdic] /file-url 例 : スイッチ# more flash:/new-configs	リモートファイルシステム上のファイルを含めて、読み取り可能なファイルの内容を表示します。

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
flash: ファイルシステムの管理コマンド	『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference』

エラー メッセージ デコーダ

説明	Link
このリリースのシステム エラー メッセージを調査し解決するために、エラー メッセージ デコーダ ツールを使用します。	https://www.cisco.com/cgi-bin/Support/Errordecoder/index.cgi

標準

標準	Title
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィーチャセットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

RFC

RFC	Title
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

シスコのテクニカル サポート

説明	Link
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</p>